

分析の種類

C 分析の種類

AとBの分析技法、さらに別に基準となるデータを用いて、分析結果を導き出す。分析の概念には、次の6書類がある。

- ①.基準分析・・・基準となるターゲットを求めようとする分析、
- ②.比較分析・・・基準を比較しその関係を導き出そうとする分析、
- ③.絶対分析・・・データ単独での状態・性質を求める分析、
- ④.相対分析・・・複数データを単独で分析し、その相関を求めようとする分析、
- ⑤.直接分析・・・データの作成者を求めようとする分析、
- ⑥.間接分析・・・データの内容を調べようとする分析の6種類がある。

分析概念の名称は《文道》についてのみ使われている言葉で他の分析概念の表現とは異なっている場合がある。分析は①～⑥の組み合わせで行われている。『基本分析機能』で表した11項目は分析概念の絶対分析に当てはまる。『キーワード群の相関』で表した4項目は分析概念の相対分析になる。この項目「標準分析機能」は前述の2つの分析機能と、比較すべき基準を別にもって行われている。基本分解分析機能は、言葉で表現する基準が求められて、その基本とのギャップを測定して表しているとも言える。基本となるターゲットは言葉で表現する表現構造と単語の構成である。これを表現スタイルとしているが、表現に現れる感情は除外され、伝達のみを表している。『基本分析機能』は分析目的に応じて、別基準がそれぞれ存在する。